

SSKP

Aikoh

福祉社会への道を照らす 愛の灯台
～一隅を照らす実践、地域への貢献～ No.80

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可
二〇二三年九月五日発行（毎月十八回、一、二、三、五、六、七の日発行）
SSKP増刊通巻第八二一九号



CONTENTS

コロナを乗り越えた

特集

Aikohともいきプロジェクトの今

ほっとでホッとできるところ

健康堂治療室リニューアル

Aikoh ヒストリー 秋まつりの歴史

2022 年度事業報告・決算報告

感謝のコーナー / 日誌抄録



コロナを乗り越えた

AIKOHともいきプロジェクトの今

おいしい

地域食堂 ともいき

なかま

オレンジカフェ

「ようやく会えたね!」「何か月振りかしら」「心配していたのよ」
再び皆さんが笑って交流ができる場(コミュニティ)を!!

「カフェが再開したら声かけてね」
ボランティア活動を中断してから3年以上。今はカフェの再開に向けて準備中です。

2019年3月からスタートした“地域食堂ともいき”は、山王地区の新しい居場所・交流の場として誕生しました。当初、はちす苑の千田ホールを使用した食堂は、参加者が100名を超えた時期もありました。しかし、コロナ禍の中でその活動も一時中断。先が見えない中、新たな可能性を模索し、2020年9月に“弁当スタイル”として再開しました。

たのよ」と住民同士で声を掛け合っていました。その他にも、地域の農家の野菜や、あったか食堂ネットワークを通じていただいた野菜や寄付物品などをボランティアと一緒に配ったり、カフェコーナーを設け、談笑できるスペースを作ったりと、徐々に工夫を加え、居場所・交流の場の復活を目指してきました。買う楽しみから、来る楽しみに変わっているのがわかりました。

コロナ前ははちす苑千田ホールにて開催していました。カフェでは、音楽演奏や体操、調理実習、醍醐味であるティータイムでは飲み物やお菓子を提供し、参加者同士、楽しく交流をしていました。コロナ禍以降は場所を南部地域福祉センターに変更。飲食の提供は中止し、感染対策に気を付けながらの開催となりました。距離をとって、マスクをして…毎月開催は継続していたものの、物

足りなさを感じていました。5月にコロナが5類に移行し、「そろそろお茶を飲みながらおしゃべりもしたい。」タイミングよく「はちす苑」でカフェの再開ができることに!10月から飲食再開&会場をはちす苑に、「オレンジカフェ・はちす」の復活です。

“弁当スタイル”では、当初市内の飲食店を応援するという意味も込めて、飲食店へお弁当を発注しておりました。その後、徐々にコロナ禍の規制緩和によりボランティア活動が再開し、自分たちでオリジナルの弁当作りを始めました。弁当の食材は、山王地区にお住いのボランティアが、協力してくださっています。仲間と一緒に作っている野菜は、愛情たっぷりに育ち、弁当に彩りを加えています。

2023年7月から、弁当販売と食堂スタイルのどちらかを選択できる“ハイブリット方式”を開始。今後も山王集会所を拠点に、再び皆さんが集い、にぎわい、笑顔が咲く活動になっていくよう努めてまいります。是非一度、足を運んでくださいな。



再開当初は、久しぶりに会い、喜ぶ皆さんの笑顔があふれていました。「ようやく会えたね!」「何か月振りかしら」「心配してい

毎月の様子を愛光のブログに載せているので見て下さい!!

問い合わせ先

開催場所：南部福祉センターB棟 研修室
※10月～はちす苑千田ホールに変更予定
電話番号：043-483-5520
担当者：島(佐倉市南部地域包括支援センター)



かいごよぼう

サロン・ド・ともいき

コロナ禍で活動を中止して1年と8か月。
令和3年11月の再開時でのみなさんの第一声は「久しぶり…、会えてよかった」

佐倉市の介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービスとして、平成30年9月28日(金)より、毎週金曜日に南部地域福祉センターで開催しています。高齢者ケアセンターはちす苑と南部地域福祉センターの共同事業で、家に閉じこもりがちな高齢者等に対し、人との交流や運動等の機会を提供し、介護予防を強化することを目的に開催しています。一回の参加利用者は、7~9名ほど、毎週1~2名の

ボランティアが利用者の送迎を行い、3~4名のボランティアが利用者を支援してくださっています。この事業にとって、ボランティアの存在は欠かせません。活動の内容は、第一興商による音楽体操やボランティアによる脳トレ、ゲームなどで楽しんでいます。利用者のみなさんにとっては、週1回メンバーやボランティアと会って話をするのがとても楽しみになっています。

問い合わせ先

高齢者ケアセンターはちす苑
電話番号：043-483-5520
開催場所：佐倉市南部地域福祉センター
佐倉市大篠塚1587



2018年11月
プレ開催
メニューはカレーライス
でした。

2019年3月
第1回開催。
初回から多くの方が訪れ
てくれました。

2020年9月
一時中断を経て、
弁当スタイルとして
再開。

2023年7月
ハイブリット方式
を開始。



問い合わせ先

開催場所：さくら山王自治会集会所
千葉県佐倉市山王1丁目9-2
電話番号：043-484-6391
担当者：林(愛光 福祉相談室)





ほっとで ホツとできるところ ～児童センター・学童保育所～



最近の南部児童センター

新型コロナウイルス感染症の5類への移行にともない、今年6月から、従来の仕様に戻して、各制限を全面解除してのフルオープンです。「みんなで自由におもちゃであそべます。」などと話すと、歓声と拍手が沸き起こるほど、だれもがこの日が来るのを待ち望んでいたことが、ひしひしと伝わってきた瞬間でした。

ままごとコーナーでは、「はいどうぞ」「ありがとう」などと、みんなで集まって楽しそうにあそぶ姿がみられました。利用者同士の距離が自然と縮まり、輪の広がりができてきました。たくさんのおもちゃに囲まれて、心が満たされ、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができました。

徐々に、小中高校生も戻ってきました。常連の子どもからの口コミをきっかけに、毎日のように仲間が増えてきます。ふらりと来た中学生に「誰かと約束？」と聞くと、「そう！集合！」みんなでバスケットをしてカードゲームをして、またバスケットをして・・・。ゴロゴロ横になってみんなで談笑している様子は、まるで友だちの家で遊んでいるかのようなリラックスモード。帰り際に「また来てね～」などと手を振ると、「毎日来ま～す！」と笑顔で帰って行きます。たまたま居合わせた子どもたち同士も、「明日もまた来ようよ」などと約束をして帰る微笑ましい会話が聞かれるようにもなりました。



これからの南部児童センター

私たちの本務である「児童健全育成」に、本格的に取り組む環境が整いつつあります。子どもたちは、「あそび」から人とかかわり方や物事に取り組む姿勢など、多くの事を育てていくと言われていきます。今後、さらにあそびの種類を増やしたり、あそび場所の利用時間などを調整したりしながら、限られたスペースの中で、誰もが満足度を高められるような「あそびの殿堂」といわれる南部児童センターにしていきたいと思えます。

また、担任にも親にも、友だちにも話せない悩みを抱えている子どももいます。子どもたちとの何気ない会話から、子どもの気持ちに寄り添いながら、自然と本音を吐露することができるような関係を築いていきたいと思えます。子どもたちを取り巻く環境も変化しているので、私たちは絶えずアンテナを張って情報を察知し、柔軟に対応していくことを心がけています。それが地域に根付く南部児童センターの役割だと考えています。



お祭りごっこの様子

(指定管理者 社会福祉法人 愛光)

佐倉市立南部児童センター

☎ 043-483-2800

開館日：火～日 9:00～17:00

〒285-0806
佐倉市大篠塚1587(南部保健福祉センター内)

リニューアル! 愛光 健康堂治療室が 生まれ変わりました!



4月より健康堂がリニューアルすることになりました。施術を担当する中澤美咲さん。今年度から健康堂での施術を担当することとなりました。あんまマッサージ指圧師、鍼師、灸師の資格を持っています。

小学生の時に盲学校でマッサージ体験を受けて感動したことがきっかけで、自分もこの道を目指そうと決めたそうです。施術後、お客様に「身体がかるくなったよ」「気持ちよかったよ」など言ってもらえることが嬉しいと笑顔で話していました。これからもお客様に喜んでもらえるように、少しでも身体が軽くなったと感じてもらえるように頑張りたいと意気込みを語ってくれました。

実際施術を受けた方の中には、気持ちよくて眠ってしまう方や痛くて真っすぐに出来なかった腰をピンと伸ばして歩いて帰られた方もいらっしゃいます。肩こりがひどく、まわらなかった肩が楽になったという声も。中澤さんの優しい雰囲気癒され、リフレッシュできると何度もマッサージを受けに来られる方もいらっしゃいます。ぜひ一度新しくなった健康堂に足を運んでください。



予約受付中

【営業日】月～金曜日
午前 9時半～11時半
午後 1時～4時

【料金】1時間2000円

※ご利用には事前に電話予約が必要です。

※60歳以上の方は佐倉市役所高齢福祉課にてマッサージ券をもらえます。マッサージ券使用で1時間1400円で施術を受けられます。

お問い合わせ、ご予約の方はこちらにご連絡ください。

☎043-484-6395

物井駅 敬愛大学 動物病院 公園 愛光 根郷中

リホープ めいわ ☆健康堂☆

駐車場もございます。お車でもどうぞ♪

住所：
愛光健康堂治療室（支援センター内）
〒285-0807
佐倉市山王2-37-9
社会福祉法人愛光 障害者支援施設リホープ

Play Back ①

創立40周年記念 愛光秋まつり



1回目は、**法人創立40周年**を記念して始まった秋まつり。1995(平成7)年11月18日、佐倉に移転して2年目の年に開催しました。

ふれあい広場に設置されたステージで、職員バンドやカラオケ大会などの催しが開催された様子が紹介されています。他にも焼きそばやおでんなどの模擬店、チャリティバザーを行って、大変盛り上がったようです。

※広報誌『Aikoh No.21』にて紹介

※ふれあい広場は現在のめいわりホープ裏あたりになります。



第17回 愛光秋まつり

Play Back ②

次に紹介するのは、2011(平成23)年、第17回目の秋まつり。東日本大震災により、東北地方をはじめ、日本中が大変な状況の中、**被災地復興を願う**意味を含めて開催されました。



ステージでは、震災のショックをかき消すかのように、力強く大きく体を動かすソーラン節や、飛び入り参加ありのステージなどが催され、会場全体が盛り上がった様子が紹介されていました。

※広報誌『Aikoh No.47』にて紹介



広報 AIKOH ヒストリー

愛光秋まつりの歴史

～コロナ禍で4年ぶりの復活開催決定！～

法人が掲げている「共生(ともいき)」の実践である秋まつり。今回のAIKOHヒストリーは、地域の方々と共に歩んできた「愛光秋まつり」の歴史を過去の広報誌「Aikoh」から振り返ります。

第26回 愛光秋まつり 開催決定

開催日 **10月7日(土)** 11:00 ~ 15:00

テーマ **絆** を取り戻す

「実に4年振りの開催ということで、愛光秋まつりの歴史も新しい一歩を踏み出します。新型コロナウイルスの流行により、開催ができなかった分、地域との繋がりを再び深めていきたいと思っています。ゲスト出演や有志団体の楽器演奏、出店など、地域住民の方々や愛光関係者が楽しい時間を過ごせるよう、準備を進めています。当日は多くの方のご来場をお待ちしています！」

第26回愛光秋まつり 実行委員長 原 宏之



Play Back ③

第22回愛光秋まつり

～안녕하세요(アンニョンハセヨ)!
ラファエルの家です!～



最後に紹介するのは、2016(平成28)年に開催された第22回秋まつりです。当時国際交流関係にあった韓国の「ラファエルの家」の方々もお招きし、福祉の世界も国際的な繋がりが生まれていることを紹介するとともに、文化や環境が違っていても、福祉の発展に向け、お互いの良いところを学び、高めあえることを、地域の方々にも知っていただく**国際交流**がテーマの秋まつりでした。



ラファエルの家の利用者によって作成されたビーズ製品などの販売や、ステージでは韓国と日本の歌の演奏、最後は「よさこいソーラン」の演舞がされ、例年とは一味違う秋まつりでした。※広報誌『Aikoh No.62』にて紹介



2022年度 事業報告



【法人本部】

中期経営計画2年目、業務執行会議で進捗の確認を行う。今年度も新型コロナウイルス感染症に対する感染予防、感染拡大を防ぐことが大きな課題であった。また、新型コロナウイルス感染症により、運営、経営に大きな影響を受けるとともに、あわせて電気代、物価高騰の影響も受ける。そのような中、各事業部の実績会議で毎月の運営、経営状況を把握して事業をすすめることができた。

【健康管理部】

当年度のスローガンは、「すべての利用者、職員に健康と福祉を」であった。新型コロナウイルス感染症の影響でご利用者、職員ともに感染者が多く発生したが、嘱託医のご協力と職員の努力もあり、幸い重篤になる方はいなかった。利用者の通院に携わることや個別支援会議への参加は、看護師の体制が整わず思うように参加できなかったが、年度末になって看護師が充足しつつあるため改善してきた。

【高齢者支援事業部】

はちす苑

当年度のスローガンは、『地域で「らしく、楽しく、末永く」』であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で内向きの対応で手いっぱい的一年であった。8月特養とショートステイでクラスターが発生し、あっという間に広がった。障害者支援施設から元はちす苑職員をヘルプで派遣してもらえたことで、何とか凌ぐことができた。また、デイサービスにおいても、ほぼ同時期にクラスターとなり、こちらも対応に追われた。その後も12月と1月に特養とデイサービスで陽性者が発生したが、感染者数は最小限に抑えることができた。収入面では補助金を除いても、近年において高い数値を結果として残すことができた。家族や地域からの評価と信頼関係が築けていることが大きく、20年以上培ってきたはちす苑の努力の成果が出ていると思われる。

【障害者事業部】

ルミエール(障害者支援施設)

「利用者、職員ともに笑顔で支え合う」をスローガンとし、チームワークと支え合いをテーマに行ったが、新型コロナウイルス感染症対策と並行し運営することの難しさを感じた。7月には職員6名、利用者14名のクラスターが発生。その後も陽性者は出てはいるが複数人同時感染はない。退所2名により、現員は58名となっている。空床2床は短期入所利用者のトライアルを続けており、近日中の入所を目指している。

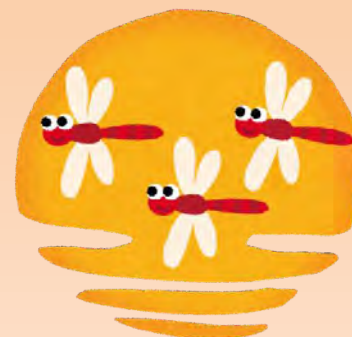
めいわ(障害者支援施設)

【入所部】

「利用者の想いを傾聴しサービスの深化につなげよう！」をスローガンとし進めてきた。新型コロナウイルス感染症については、10月2日に利用者1名の感染が確認され、瞬間に感染拡大した。最終的には66名(短期入所含む利用者54名、職員12名)が感染し11月5日に終息を迎えた。ほぼ全員の感染と1カ月に及ぶ行動自粛で生活リズムや脚力の低下等危惧されたが、幸い重症化された方もなく皆さん無事快復した。

【通所部】

今年度は「利用者の『楽しみ』『やりがい』を尊重し、ハリのある生活となるよう支援する」をスローガンとし、業務に取り組んできた。根郷通所センターの自主生産品が“酒々井パーキングエリア内の販売”にまで漕ぎつけたことは、今後の根郷通所センターの活動の柱となる大きな取り組みのひとつであった。作業活動の充実と同時に余暇支援にも力を入れてきた。“忙しさを労うお楽しみ会”や“ミニ菜園で収穫した調理”などを実施し土曜の開所日には様々な余暇活動を提供している。



リホープ(障害者支援施設)

「他職種共働による支援の向上」をスローガンとして業務に取り組んできた。前年度に専門職との協力体制に苦慮していたための目標であった。しかし、当年度はリホープでの意識改革のために、専門職の意見を否定するのではなく、受け止めて支援に生かすための話し合いをフロア会議・職員会議等で実施した。そのため嚙下・リハビリ・高齢者対応等での支援の向上に繋がったと思われる。

山王の家(共同生活援助)

「地域の中で、自分らしい生活を」をスローガンとして業務に取り組んできた。感染対策を施したうえで、近隣のコンビニエンスストアで嗜好品を買ったり、スーパーで日用品を購入したりと利用者各自が思い思いに日常生活を送っている。週末は実家へ帰省する利用者も多いが、美容院や床屋へ出かけたり、外食へ出掛ける利用者もいる。また、家族との通院以外に地域の歯医者や皮膚科等の病院を受診したりと、「地域の中で、自分らしい生活を」送ることができている。

【佐倉圏域事業部】**佐倉市よもぎの園(就労継続支援B型)**

当年度のスローガンは「仲間の良いところを見つけ褒め合い 高め合っていこう」であった。12月に基幹相談であるアシストによる相談会(家族向け)をよもぎの園で実施。5組の家族が参加され、家族の高齢化による今後の不安等に関する相談を中心に受け、ショートステイ利用やグループホーム体験の話題にも繋がった。圏域でのグループホーム整備について実績会議内で議題として挙げ検討を進めている。アンケートも実施してニーズ調査もおこなった。

ワークショップかぶらぎ(就労継続支援B型/自立訓練)

当年度のスローガンは「地域で『働く』・『生活する(いきる)』を支える」であった。佐倉市社会福祉協議会、佐倉市あったか食堂ネットワークと当事業所との三者で協議を重ねた「あったかパントリー」が正式受託になった。パントリーの作業を通して障害の理解、地域との関わりを自然な形で進めることができると感じている。新規プログラムとして健康に関わる講座を3回講座(健康、栄養、運動)として、佐倉市健康管理センターの協力で実施。毎回10名程度の参加者があった。

ジョーの家(共同生活援助)

当年度のスローガンは「利用者の変化に気づき、生活を共に考える」であった。「職員体制の構築」について、必要な支援や時間帯についての精査を行い、昨年1月からワークショップかぶらぎの職員が支援に入る体制を継続。利用者との関係構築ができ、気づきから改善点を見出している。「地域の社会資源としての202号室の活用」について、昨年度末から家族の病気により、ワークショップかぶらぎの利用者が利用した。この経験をもとに一人暮らしに移行している。

【地域福祉事業部】**南部児童センター/学童保育所**

前年度に引き続き、スローガンを「地域子育て支援～地域づくりはこころの元気づくり～」と掲げた。児童センターはコロナの流行以降、初の遠足を実施。県民の日、うんどう会などは広報を早々に行ったこともあり、回を重ねるごとに徐々にリピーターの積み重ねが増え、9月には31か月ぶりに月間の来場者が1,000名を超えた。そして、今年度は昨年度を大きく上回り、年間10,569名の利用者となった。学童保育所でも続々とイベントを再開した。県民の日には今まで控えていた隣の学童と一緒に企画を実施したり、連日の猛暑にも負けず、子どもたちが着々と準備を進めた「縁日」では大満足する中に、「家庭に代わる生活の場」を楽しむ、日常の子どもたちの姿が多く見られるようになってきた。

総合相談センター(アシスト/佐倉市南部地域包括支援センター)

当年度のスローガンは、「個を支える地域づくりを地域と共に」とした。多職種との事例検討や地域ケア会議を通して、個別支援を考え、地域のネットワークづくりを進めた。アシストの相談件数の8割が精神疾患の相談であることから、職員の相談支援の質の向上、職員の精神的負担軽減を目的に事例検討会を実施した。アシスト主催の合同事例検討会は、「精神障害」「8050」「児童」「虐待」などをテーマに年6回開催した。南部圏域の地域ケア会議では、和田地区と弥富地区の移動支援に焦点をあて、地域住民、専門職と共に個別支援から地域課題を考える会議を行った。多職種連携の視点からは、医療介護連携会「さきいか」やデイサービス連絡会、南部ケアマネ会を開催し、専門職間のネットワークづくりに力を入れた。

南部地域福祉センター

前年度に引き続き、地域福祉センターの役割と使命として、スローガンを『地域の方が生きがいを持って利用できる地域福祉の拠点の構築』とした。地域住民が気軽に集える交流の場である「ふれあいサロン南部」は、4月より毎月第1金曜日に定期的に開催、また、センター利用者を中心とした作品の発表の場である「南部文化祭」も11月に開催した。コロナ禍におけるセンターの開所状況、対応については、6月より室内における黙食が可となった。11月からは、基本的な感染対策を講じた上で、原則として従前の利用制限は解除となった。





2022年度 決算報告

法人単位資金収支計算書

第一号第一様式

(自)令和4年1月1日(至)令和5年3月31日

(単位:円)

勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
介護保険事業収入	505,456,136	507,659,457	△2,203,221	
老人福祉事業収入	41,782,100	41,849,396	△67,296	
保育事業収入	157,195,229	157,707,965	△512,736	
就労支援事業収入	15,753,937	15,636,589	117,348	
障害福祉サービス等事業収入	1,317,907,132	1,320,602,510	△2,695,378	
経常経費寄附金収入	2,264,660	2,364,660	△100,000	
受取利息配当金収入	1,018,345	994,505	23,840	
その他の収入	13,429,062	14,029,008	△599,946	
事業活動収入計(1)	2,054,806,601	2,060,844,090	△6,037,489	
人件費支出	1,400,913,726	1,389,757,906	11,155,820	
事業費支出	315,346,432	304,032,178	11,314,254	
事務費支出	263,443,185	244,653,608	18,789,577	
就労支援事業支出	15,753,937	15,967,924	△213,987	
その他の支出	5,948,859	5,964,716	△15,857	
事業活動支出計(2)	2,001,406,139	1,960,376,332	41,029,807	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	53,400,462	100,467,758	△47,067,296	
固定資産売却収入	150,000	150,000	0	
施設整備等収入計(4)	150,000	150,000	0	
固定資産取得支出	19,542,797	17,624,141	1,918,656	
ファイナンス・リース債務の返済支出	6,903,838	6,903,838	0	
施設整備等支出計(5)	26,446,635	24,527,979	1,918,656	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△26,296,635	△24,377,979	△1,918,656	
積立資産取崩収入	14,674,272	15,350,573	△676,301	
その他の活動による収入	90,524	90,524	0	
その他の活動収入計(7)	14,764,796	15,441,097	△676,301	
積立資産支出	14,593,375	14,508,375	85,000	
その他の活動による支出	6,594,316	6,594,316	0	
その他の活動支出計(8)	21,187,691	21,102,691	85,000	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△6,422,895	△5,661,594	△761,301	
予備費支出(10)	0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	20,680,932	70,428,185	△49,747,253	
前期末支払資金残高(12)	1,750,994,010	1,750,994,010	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)	1,771,674,942	1,821,422,195	△49,747,253	

法人単位事業活動計算書

第二号第一様式

(自)令和4年1月1日(至)令和5年3月31日

(単位:円)

勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
介護保険事業収益	507,659,457	476,570,216	31,089,241
老人福祉事業収益	41,849,396	41,712,965	136,431
保育事業収益	157,707,965	153,373,347	4,334,618
就労支援事業収益	15,636,589	12,967,906	2,668,683
障害福祉サービス等事業収益	1,320,602,510	1,322,206,973	△1,604,463
経常経費寄附金収益	2,364,660	795,600	1,569,060
その他の収益	2,342,686	6,466,067	△4,123,381
サービス活動収益計(1)	2,048,163,263	2,014,093,074	34,070,189
人件費	1,394,014,573	1,386,448,391	7,566,182
事業費	302,303,657	263,735,452	38,568,205
事務費	244,698,752	254,667,139	△9,968,387
就労支援事業費用	16,322,425	13,871,734	2,450,691
設備償却費	176,778,572	179,146,307	△2,367,735
国庫補助金等特別積立金取崩額	△50,434,384	△50,458,900	24,516
サービス活動費用計(2)	2,083,683,595	2,047,410,123	36,273,472
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△35,520,332	△33,317,049	△2,203,283
受取利息配当金収益	994,505	917	982,529
その他のサービス活動外収益	11,686,322	12,772,627	△1,086,305
サービス活動外収益計(4)	12,680,827	12,784,803	△109,976
支払利息	0	2,834	△2,834
その他のサービス活動外費用	5,671,616	5,013,050	658,566
サービス活動外費用計(5)	5,671,616	5,015,884	655,732
サービス活動増減差額(6)=(4)-(5)	7,009,211	7,768,919	△759,708
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△28,511,121	△25,551,130	△2,959,991
施設整備等補助金収益	149,999	1,151,100	△1,001,101
固定資産売却益	149,999	848,317	△698,318
その他の特別利益	0	0	0
特別利益計(8)	149,999	1,999,417	△1,849,418
固定資産売却損・処分損	82,808	253,195	△170,387
国庫補助金等特別積立金積立額	0	1,151,100	△1,151,100
特別費用計(9)	82,808	1,404,295	△1,321,487
特別増減差額(10)=(8)-(9)	67,191	595,122	△527,931
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△28,443,930	△24,956,008	△3,487,922
法人税、住民税及び事業税(12)	293,100	199,100	94,000
当期活動増減差額(13)=(11)-(12)	△28,737,030	△25,155,108	△3,581,922
前期繰越活動増減差額(14)	6,024,081,546	5,997,626,237	26,455,309
当期末繰越活動増減差額(15)=(13)+(14)	5,995,344,516	5,972,471,129	22,873,387
基本金取崩額(16)	0	0	0
その他の積立金取崩額(17)	6,594,316	51,610,417	△45,016,101
その他の積立金積立額(18)	0	0	0
次期繰越活動増減差額(19)=(15)+(16)+(17)-(18)	6,001,938,832	6,024,081,546	△22,142,714

法人単位貸借対照表

令和5年3月31日現在

第三号第一様式

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,935,430,699	1,859,299,040	76,131,659	流動負債	236,340,834	238,643,970	△2,303,136
現金預金	1,581,020,194	1,518,453,186	62,567,008	事業未払金	98,954,331	94,166,325	4,788,006
事業未収金	337,092,678	325,632,946	11,459,732	1年以内返済予定リース債務	6,033,000	6,146,118	△113,118
未収補助金	8,875,173	7,481,603	1,393,570	1年以内支払予定長期未払金	0	6,594,316	△6,594,316
貯蔵品	639,383	1,588,397	△949,014	預り金	230,062	146,956	83,106
立替金	5,878,522	5,329,253	549,269	職員預り金	12,940,607	13,368,820	△428,213
前払金	149,904	0	149,904	賞与引当金	116,725,984	118,221,435	△1,495,451
前払費用	988,414	1,181,155	△192,741	その他の流動負債	1,456,850	0	1,456,850
その他の流動資産	1,153,931	0	1,153,931				
徴収不能引当金	△367,500	△367,500	0				
固定資産	5,852,370,603	6,008,153,007	△155,782,404	固定負債	184,513,595	182,629,190	1,884,405
基本財産	4,860,064,153	5,000,117,539	△140,053,386	リース債務	7,200,160	10,462,880	△3,262,720
土地	3,186,265,828	3,186,265,828	0	退職給付引当金	176,713,435	171,566,310	5,147,125
建物	1,673,798,325	1,813,851,711	△140,053,386	長期預り金	600,000	600,000	0
その他の固定資産	992,306,450	1,008,035,468	△15,729,018	負債の部合計	420,854,429	421,273,160	△418,731
建物	2,833,803	3,249,090	△415,287	純資産の部	7,366,946,873	7,446,178,887	△79,232,014
構築物	10,357,604	10,462,719	△105,115	基本金	1,306,000	1,306,000	0
機械及び装置	5,535,808	6,802,277	△1,266,469	国庫補助金等特別積立金	641,254,723	691,749,707	△50,494,984
車両運搬具	5	15,771	△15,766	その他の積立金	729,041,318	729,041,634	△322,316
器具及び備品	39,555,895	46,509,016	△6,953,121	人件費積立金	63,000,000	63,000,000	0
有形リース資産	13,215,664	16,521,518	△3,305,854	修繕積立金	179,466,000	179,466,000	0
権利	2,368,155	2,404,335	△36,180	備品等購入積立金	33,421,760	33,421,760	0
ソフトウェア	16,314,080	20,217,259	△3,903,179	施設整備積立金	444,260,665	450,854,981	△6,594,316
無形リース資産	17,496	87,480	△69,984	工賃変動積立金	1,863,068	1,863,068	0
退職給付引当資産	176,713,435	171,566,310	5,147,125	設備等整備積立金	435,825	435,825	0
人件費積立資産	63,000,000	63,000,000	0	次期繰越活動増減差額	6,001,938,832	6,024,081,546	△22,142,714
修繕積立資産	179,466,000	179,466,000	0	(うち当期活動増減差額)	△28,737,030	△25,155,108	△3,581,922
備品等購入積立資産	33,421,760	33,421,760	0				
施設整備積立資産	444,260,665	450,854,981	△6,594,316				
工賃変動積立資産	1,863,068	1,863,068	0				
設備等整備積立資産	435,825	435,825	0				
差入保証金	412,800	412,800	0				
長期前払費用	2,534,387	745,259	1,789,128	純資産の部合計	7,366,946,873	7,446,178,887	△79,232,014
資産の部合計	7,787,801,302	7,867,452,047	△79,650,745	負債及び純資産の部合計	7,787,801,302	7,867,452,047	△79,650,745

共に生きる あなたの想いを地域の力に

御 礼

愛光 後援会 愛の灯台基金は、2023年5月をもちまして、創設20周年を迎える運びとなりました。これもひとえに皆様方の厚いご支援と温かい激励の賜でございます。ここに心よりの感謝を申し上げます。

これを機に、いま一度設立趣意の精神に立ちかえり、より一層愛光の展開する福祉事業を支援し、地域社会の福祉文化向上の推進と地域貢献活動に努めてまいります。

今後ともご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



Since 2003
20 anniversary
周年

愛光 後援会
愛の灯台基金

2023(令和5)年度 会員募集

年会費
個人会員 1,000円(1口)
団体会員 10,000円(1口)

会期：2023年7月1日～2024年6月30日
新規会員、及びご登録会員の皆様のご入会を
心よりお待ちしております。

《お問い合わせ先》 愛の灯台基金事務局 043-484-6398

感謝のコーナー (2023.4～2023.7)

法人ならびに各施設に対して、ご芳志をいただいた皆様です。厚く御礼申し上げます。勝手ながら敬称を省略させていただきます。(順不同)

【個人】藤田光義、和田春子、宍田紀子、矢野光子、太田正枝、幸田てるみ、上田祐生

【団体】公益社団法人 日本フィランソपी協会、ログク製菓株式会社、さくら山王自治会、佐倉市社会福祉協議会、千葉県立千葉女子高等学校、細谷農園 細谷明、声の花束実行委員会 吉成庸子、さくらあったか食堂ネットワーク

日誌抄録

(2023.4～2023.7)

ル：ルミエール
根：根郷通所センター
よ：よもぎの園
包：南部地域包括支援センター
山：山王の家

め：めいわ
は：はちす苑
か：ワークショップかぶらぎ
児：児童センター・学童
後：後援会「愛の灯台基金」

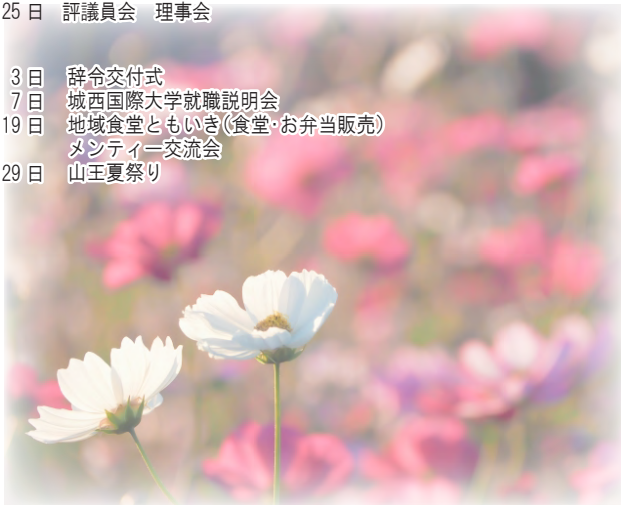
リ：リホープ
ア：アシスト
ジ：ジョーの家
地：南部地域福祉センター

- 4月**
- 3日 辞令交付式
 - 3日 新任職員研修
 - 4日 //
 - 5日 //
 - 6日 //
 - 8日 AIKOHフォーラム(成年後見制度講演会)
 - 11日 次年度職員採用試験
 - 15日 後援会主催 バリアフリー映画会
 - 19日 地域食堂ともいき(お弁当販売)
 - 22日 福祉のお仕事就職フェア

- 5月**
- 8日 職員健康診断
 - 9日 //
 - 12日 //
 - 13日 東京福祉専門学校就職説明会
 - 13日 後援会主催 バリアフリー映画会(リ)
 - 17日 地域食堂ともいき(お弁当販売)
 - 18日 監事監査
 - 19日 //
 - 23日 第11回職員実践発表会
 - 25日 監事監査

- 6月**
- 2日 次年度職員採用試験
 - 10日 理事会
 - 15日 次年度職員採用試験
 - 16日 次年度職員採用試験
 - 19日 避難訓練
 - 21日 地域食堂ともいき(お弁当販売)
 - 25日 評議員会 理事会

- 7月**
- 3日 辞令交付式
 - 7日 城西国際大学就職説明会
 - 19日 地域食堂ともいき(食堂・お弁当販売)
 - メンティー交流会
 - 29日 山王夏祭り





秋まつり

愛光 地域との絆を 取り戻す

令和5年
10月7日 土
11:00 ~ 15:00

会場/
社会福祉法人愛光
内駐車場



物井⇄会場間送迎あります(10:00~16:00)

※会場内駐車場には限りがありますので、
出来るだけ交通機関をご利用ください

今年は
抽選会を行いません

問い合わせ先
ルミエール 043-484-6393 担当：原

このチラシは『ワークショップかぶらぎ』で作成したものです。
チラシ、封筒、冊子など承ります。お気軽にご連絡下さい。



編集後記

今回は、いよいよ愛光の「ともいき事業」が再始動したという記事を掲載しました。そして秋まつりも実施の運びとなりました。元々お祭りの語源とは心を尽くした供え物で神様に感謝をささげること、だそうです。今回の秋まつりばかりは、感謝の気持ちはもちろん、これまでを乗り越えた自分たちへの褒美を兼ねたいと思う今日この頃です。(高橋)

編集委員

稲垣直子(委員長) / 林拓也(総務部) / 関谷篤史(めいわ) / 小川海星(はちす苑) / 野呂快(ルミエール) / 佐藤友里恵(リホース) / 藤山明子(南部包括) / 高橋飛鳥(ワークショップかぶらぎ)

2023年(令和5年)9月5日発行

社会福祉法人 愛光
発行人 西原 弘明
編集人 広報委員会
〒285-0807 千葉県佐倉市山王 2-37-9

TEL.043-484-6391
FAX.043-484-6396

E-MAIL mail@rc-aikoh.or.jp
U R L https://www.rc-aikoh.or.jp
印刷：ワークショップかぶらぎ